









大自然×ビジネス

ワクワクがギッシリ!
自然資源の宝庫が
キミを待っている!!

LET'S OPEN!!

東京農業大学

生物産業学部（北海道オホーツクキャンパス）

自然資源経営学科







自然資源
natural resources

例えば農作物、野生動物、
山、川、湖、海、流氷、景観
鉱物、自然エネルギー
など



人間生活や社会にとって、健全な自然生態系や環境を維持することで、
農業をはじめとする第一次産業（漁業・林業）や関連産業（食や観光）が成立している。

**当学科では、大地・森・海などの自然資源を活かして
環境共生と地域ビジネスを実践的に学びます**

**農大で唯一
「経営学士」の
学位を授与**

【オホーツクで自然資源経営学を学ぶ意義】

① 良質な自然環境と
自然資源の存在

② 経営基盤に優れた1次産業、裾野の広い生物産業ビジネス
（自然→生産→加工→流通・ビジネス）

③ フィールドワークで
実践的に学べる環境

ここには自然環境、生産から商品開発・販売までビジネスモデル全体をリアルに体験できる学びのフィールドがある!!

自然資源経営学科　学びの実例

学生の実践的学びやチャレンジを教員、地域企業で応援・サポート

Example 01 オホーツクにおける エゾシカの活用を学ぶ

エゾシカ増加による農林業被害や生態系への負の影響が問題となっています。そのため年10万頭が捕殺。しかし、その多くは有効活用されていません。エゾシカを地域資源としてどう地域活性化につなげるのか？ を現場での体験から学びます。



鹿牧場でのエサやり体験



エゾシカ捕獲の仕掛け罠の中に
入る様子



狩猟したエゾシカの搬出体験



エゾシカの養鹿と加工品開発に取り
組む知床エゾシカファームの見学

着眼点

環境保全+新たな地域ビジネスの創出

エゾシカの頭数管理 ▶ エゾシカの有効利用 ▶ エゾシカの養鹿ビジネスの創出

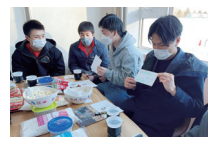
**地域資源の価値の見直しを通じて、
新たな地域ビジネスを創出する**

Example 02 農林水産業を元気にする ビジネスモデルを実践的に学ぶ

経営基盤に優れた第1次産業が展開するオホーツクでは、6次産業化ビジネスを学ぶための現場とのネットワークが充実しています。農業体験はもちろんのこと、創業者からレクチャーを受けたり、ビジネスプランや販路拡大の方策を考えたり、地域の課題解決を通じて実践的に学んでいきます。



農業ビジネスの創業者から
直接レクチャー



研修先で6次産業化の
ビジネスプランを考える



酪農体験実習もサポートが
充実しています



漁業者の商品の販路拡大策を
一緒に考える

着眼点

**大学で学んだことを、実際に様々な生産現場を
訪れ、実習・ワークショップ等で実践することで、
ビジネスの発展や地域活性化につなげる
ノウハウを学ぶ**

実学主義の体現

Example 03 体験型観光を通じて エコツーリズムを学ぶ

豊かな自然に恵まれているオホーツク地域には、希少な野生動物や植物などが多く生息しています。自然資源経営学科では、網走でホエールウォッチングを体験したり、世界遺産の知床でネイチャーガイドを体験したりしながら、エコツーリズムを通じた地域活性化を学びます。生きものの生態や観光に関する経営の知識を身につける必要があるため、文理融合型の学びといえるでしょう。



ホエールウォッチングの様子



クジラが海面まで上がってきて
呼吸をしている



知床にある
カムイワッカ湯の滝を歩く



応急措置を学ぶ

着眼点

**エコツーリズムを展開することで、
人間と自然と生きものとの共生を図りつつ、
地域の活性化を実現する**













4年間の学びの特徴

少人数制のゼミナールでグループワーク　　**幅広い問題関心を育てる**

1年次 オホーツク地域の自然や産業、歴史などを体験する実習や基礎ゼミナール

2-3年次 専門科目の修得とともに、「現場」重視のフィールドワーク

4年次 必修卒業論文に取り組み、問題解決と考え抜く力を付ける

●必修／ゼミナールを基礎単位とした少人数制で討論とコミュニケーション力を身につけます
（1年次は基礎ゼミナール、2年次からは希望する研究室・ゼミに所属します）

●フィールドワークと現場体験を重視し、そこから解決すべき課題を発見
（所属ゼミでする基礎ゼミナールや自然資源経営学ゼミナール(一)(二)での現地研修など）

●選択／自然資源経営学実務演習(一)(二)(三)
オホーツクの自然資源やフィールドを活用した多様な実践プログラムを選択して、1年次から参画できます
フィールド活動を通じて実践的な課題に向き合い、4年間の学びの集大成として卒業論文に取り組み社会で通用する力を伸ばします（読解力、論理的思考力、情報収集と分析力、問題解決力、プレゼンテーション力を鍛えます）

4年間を通じてフィールドワークとゼミで地域の「現場」を学びます



阿寒湖畔での
フィールドワークの様子



知床世界自然遺産で
観光産業と「環境共生」を学ぶ



濤沸湖・水鳥湿地センターで
動植物の生息環境を学ぶ



訪問先の企業でアイデアの検討

学科カリキュラム

●必修科目（選択必修科目含む）
●選択科目

1年次

●自然資源経営学概論
●経営学(一)
●経営学(二)
●簿記
●基礎ゼミナール
●自然資源経営学実務演習(一)

2年次

●財務会計論
●経営管理論
●マーケティング論
●経営組織論
●商品開発論
●観光ビジネス論
●社会と法
●統計学
●環境共生論

●環境経済政策論
●地域活性化システム論
●地域産業創成学
●流通システム論
●自然資源経営学ゼミナール(一)
●地域観光論
●人的資源管理論
●自然資源経営学実務演習(二)

3年次

●空間情報システム論
●農業経営経済論
●管理会計論
●ベンチャービジネス論
●財務諸表分析
●地域環境ビジネス論
●ネイチャーツーリズム論
●自然資源経営学ゼミナール(二)
●現代経済学
●社会調査論
●生物産業経営史
●自然資源経営学実務演習(三)

4年次

●卒業論文作成演習
●卒業論文
●科学英語

起業　ビジネス展開　商品企画

学びを活かし全国各地で活躍中!

当学科出身の卒業生たち



平野　乃暉さん
（2024年卒業）
株式会社湖池屋

在学時はエゾシカ骨の有効活用を目的に「ジビエラーメン研究所」でメニュー開発と販売に携わりました。現在はポテトチップスを販売する仕事をしています。



笠井　文考さん
（1996年卒業）
知床アルパ(株) 代表

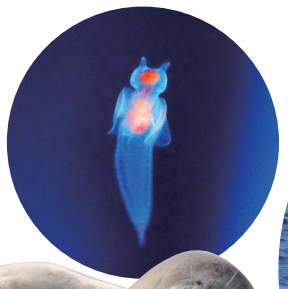
環境共生型ニューツーリズムに取り組むネイチャーガイドとして、北海道・知床で起業。本学科のネイチャーツーリズム論を非常勤講師として担当。



池田　多岐さん（2020年卒業）
株式会社AIRDO 北海道室

北海道の魅力を伝える仕事をしたいと北海道の航空会社に就職。羽田空港での地上係員業務を経て、22年に地域連携の促進を目的に新設された部署に所属。就航地域での冬季施策の実施や包括連携協定の締結、商品を通じた北海道体験の提供を目的としたオンラインショップの商品調達に取り組んでいる。







持続可能なビジネス創出と
地域経済の活性化を目指す

2分野・4つの研究室




ネイチャーマネジメント分野

自然資源を活用し、持続可能で環境に配慮したツーリズムを含むビジネスを通じて、地域活性化を研究する分野

環境情報研究室

環境情報を活用し、持続可能な社会づくりを探究

北海道オホーツク地域は、世界自然遺産・知床をはじめとする豊かな自然環境が世界中の人々を魅了しています。この豊かな自然環境の保全と活用を考えることは、持続可能な社会づくりにつながっていますが、自然、経済、社会は相互に関連しており、SDGsとして国際社会共通の課題となっています。本研究室では、自然資源の価値の可視化や地域企業の環境経営の分析など、環境情報を活用して持続可能な社会づくりの実現に向けた研究に取り組んでいます。

想定される卒業論文テーマ

- 濤沸湖および藻琴湖流域における土地利用変化に伴う生態系サービス評価に関する研究
- CVMによる「ゼニガタアザラシと地域の共生」に対する経済的価値評価





地域観光研究室

豊かな自然を活用した農林水産業と観光の連携を学ぶ

自然資源を活かしたツーリズムは、観光客に大きな感動を与えるとともに、地域活性化にも寄与します。また、北海道オホーツク地域は、豊富な自然資源をベースとした農林漁業が展開されていますが、農林漁業の魅力を地域内外に周知したり、地域の担い手の確保に向けた取り組みとして、各地においては農林漁業と観光の連携によるグリーンツーリズムやマリンツーリズムの推進に力を入れています。本研究室では、自然環境と調和したツーリズムビジネスの創出の他、農林水産業と観光の連携に関わる研究を通じて、地域活性化に役立つ取り組みを実践します。

想定される卒業論文テーマ

- 知床の自然保護と観光振興の両立
- 道の駅による観光振興におけるニューツーリズムの推進





地域マネジメント分野

地域資源を活用し商品開発や事業化を通じたビジネス創造により地域産業の発展を研究する分野

企業経営研究室

新商品開発や異業種・地域連携を通じて企業の発展に寄与する

企業の経営・管理・分析を行うためには、商品開発から流通、マーケティングに至る一体的な取り組みを論理的に理解することが求められます。特に企業は持続的な経営にむけて、地方創生やSDGsへの寄与を意識していくことが求められており、地域資源を活かした商品開発のみならず、製造業・流通業・サービス業・観光業・金融業等にわたる異業種連携や地域連携（都市と地方、地方と地方の連携）などを通じて、社会課題解決にコミットしていくなかで、企業価値を高めていくことが重要となります。本研究室では、新商品開発や異業種連携、地域連携を通じて、自然資源を含む地域資源や風土を活用した企業の持続可能な発展や企業価値向上を追究します。

想定される卒業論文テーマ

- 持続可能性からみた北海道オホーツク地域の木材加工業の現状と課題
- エゾシカ皮を利用した事業規模拡大の可能





農業創生研究室

農林水産業における持続的な経営展開の方策を考える

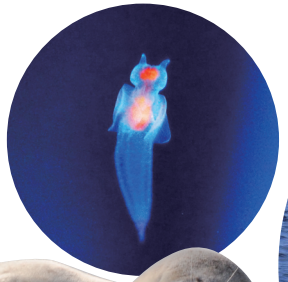
農林水産業においては担い手不足が深刻化しており、持続的な経営の展開に向けて、従来の農林業の枠にとらわれない新たなビジネスモデル（観光農園、農家レストラン・カフェ、輸出など）の創出や安定的な経営が展開できる経営者の育成が求められています。本研究室では、持続的発展が可能な農林漁業の経営者育成と農林漁業をベースとした新たなビジネス創出や起業、地域の経営者、人材育成に関する研究を行っています。

想定される卒業論文テーマ

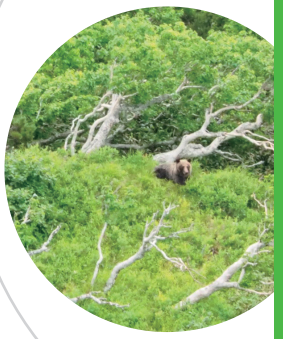
- 中山間地域における持続可能な農業と内発型地域活性化に関する調査研究
- 地域における新規就農支援の重要性に関する研究








農 東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス

生物産業学部 自然資源経営学科

〒099-2493 北海道網走市八坂196番地



ACCESS

女満別空港まで 札 幌から 45分
東 京から100分
名古屋から110分

網走駅よりバスで30分
女満別空港より車で20分

東京農業大学北海道オホーツクキャンパス 入学センター

TEL 0152-48-3814 FAX 0152-48-2246

E-mail nyushi01@nodai.ac.jp

自然資源経営学科ホームページ
https://www.nodai.ac.jp/academics/bio/o_bus/